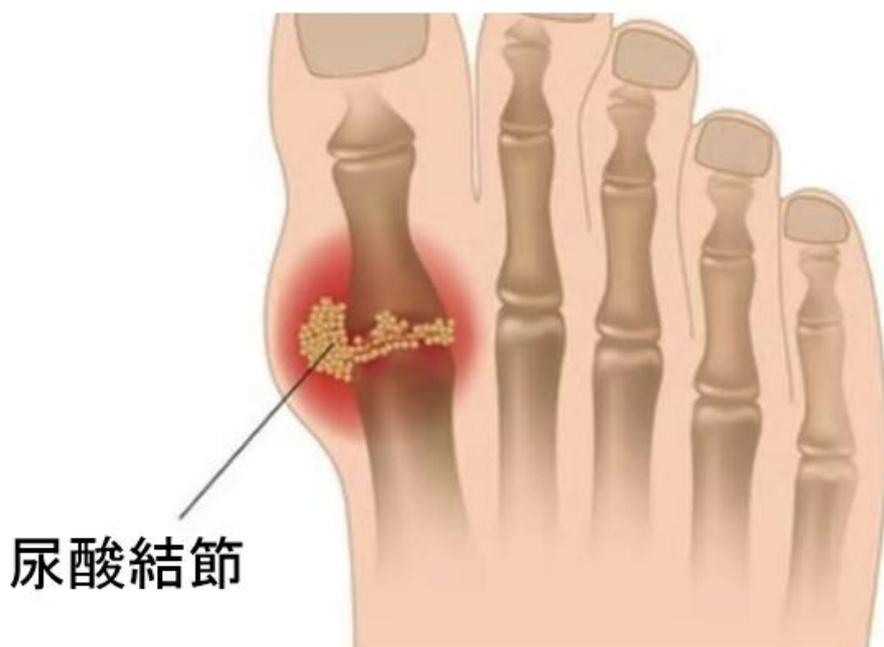


痛風結節について

痛風結節とは尿酸塩結晶とそれを取り囲む炎症細胞から構成される肉芽組織。東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センターによれば、痛風患者の5-7%に認められ、そのうち約半数は**骨破壊**と関連していることが報告されました。

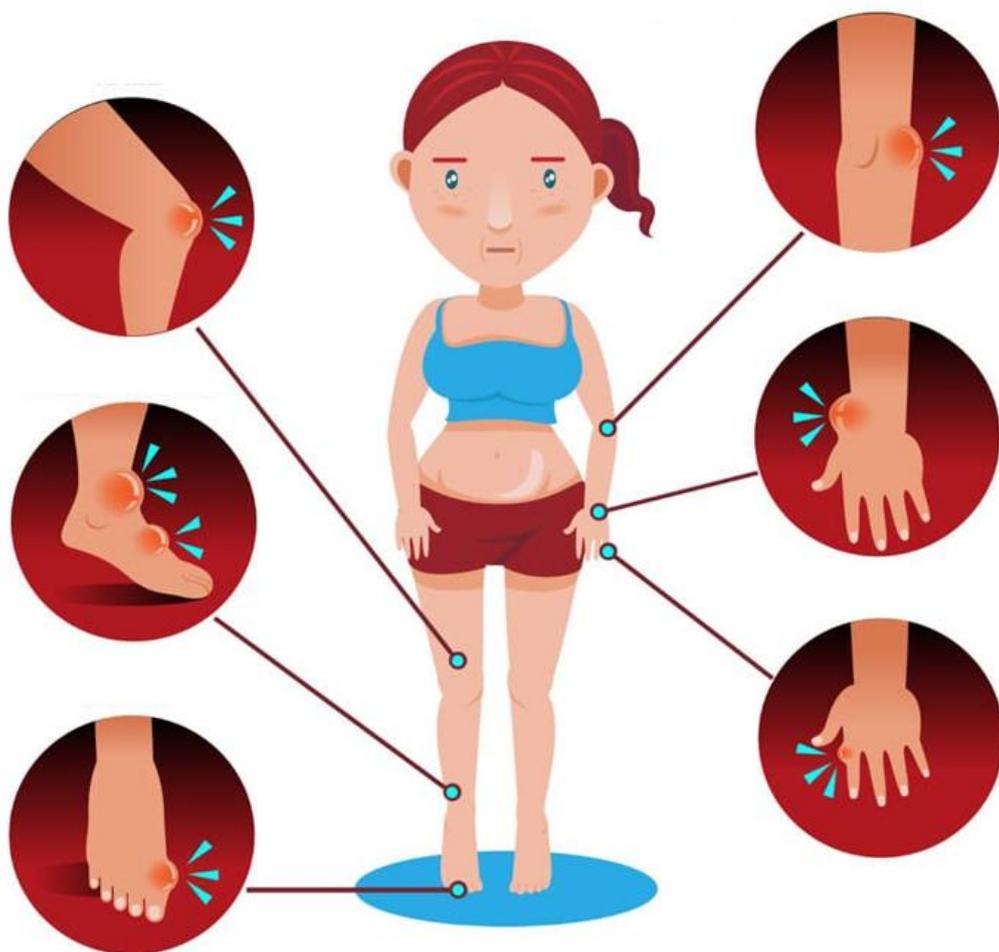


日本人の痛風患者 983 例を分析したところ、男性 99%、約 25% に痛風あるいは高尿酸血症家族歴が認められ、痛風発症年齢は 44 歳。初診時痛風罹病期間は平均 6 年で、ほとんどが痛風発作を主訴に来院。初診時点での痛風結節を保有している割合は 5-7% でありました。



痛風結節保有例の割合は、罹病期間とともに増加する傾向があり、特に罹病期間が 20 年以上では 30%。

痛風結節保有例と非保有例のその後の経過を比較したところ、痛風結節保有例では上肢の痛風発作が高頻度に出現、痛風発作を起こした関節の数や痛風発作回数も多い結果となりました。



また、痛風結節保有例では、非保有例と比べて高血圧や循環器・脳血管疾患が有意に多い結果となりました。



世界の各国で痛風が増加しており、日本でも痛風患者数は 100 万人を超えるようになりました。痛風結節患者では、より厳格な血清尿酸値のコントロールが必要になります。

